

第1問 取引の仕訳を答える問題である。以下赤字は日商簿記ゼミ3級教本改訂版参照ページである。

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	租 税 公 課	500,000	当座預金	500,000
2	手形借入金	1,000,000	当座預金	1,000,000
3	旅費交通費	75,000	仮 払 金 未 払 金	50,000 25,000
4	普 通 預 金	1,500,000	資 本 金	1,500,000
5	備 品 消 耗 品 費	550,000 5,000	普通預金	555,000

1. 固定資産税を納付したときの仕訳を問う問題である。p.110

- ・固定資産税などの地方税は次のような仕訳をすることもある。

納税通知書を受け取ったとき (借) 租税公課×× (貸) 未払税金 (または未払金) ××

納付したとき (借) 未払税金×× (貸) 現金など××

- ・しかし、未払金に計上することをしないとあるので、次の仕訳が解答になる。

(借) 租税公課 500,000 (貸) 当座預金 500,000

- ・租税公課の代わりに、固定資産税で仕訳することも考えられるが、勘定科目に該当の勘定がないのでここでは、租税公課勘定で処理する。

2. 手形借入金の返済に関する仕訳を問う問題である。p.95

- ・手形を振り出して借り入れていたから、手形借入金勘定 (負債) で処理する。
- ・借入金は負債であるから、返済したとき手形借入金勘定の借方に記入する。

(借) 手形借入金 1,000,000

- ・当座預金口座より引き落とされた。

(貸) 当座預金 1,000,000

3. 旅費の精算に関する仕訳を問う問題である。p.103

- ・旅費交通費の総額は¥75,000 (仮払金¥50,000 + 従業員の立替分¥25,000) である。

(借) 旅費交通費 75,000

- ・仮払金¥50,000 を旅費交通費に振り替える。

(貸) 仮 払 金 50,000

- ・不足額は…未払金として計上した。

(貸) 未 払 金 25,000

4. 株式を発行し会社を設立したときの仕訳を問う問題である。p.117

- ・株式を発行したときは、原則全額を資本金とする。

(貸) 資 本 金 1,500,000

- ・払込金は普通預金口座に預け入れられた。(借) 普 通 預 金 1,500,000

5. 備品および消耗品の購入に関する仕訳を問う問題である。p.24, 92

・ 備品と消耗品の区別

耐用年数が 1 年以上かつ金額が 10 万円以上のものが備品、それ以外が消耗品である。

したがって、事務用オフィス機器¥550,000 は備品、コピー用紙¥5,000 は消耗品費で処理する。

(借) 備 品 550,000

 消耗品費 5,000

・ 普通預金口座より振り込んだ。

(貸) 普通預金 555,000

第2問 取引がどの補助簿に記帳されるかを問う問題である。

【解答】

問 1

補助簿 日付	現金 出納帳	当座預金 出納帳	商品有高帳	売掛金元帳 (得意先元帳)	買掛金元帳 (得意先元帳)	仕入帳	売上帳	固定資産 台帳
2日			○		○	○		
16日	○	○						○
18日	○		○	○			○	
25日				○				

問 2 ￥ (882,000) の固定資産売却 (損 ・ 益)

【解説】

現金出納帳	現金勘定の明細を記録するための補助簿 p.50 → 仕訳に「現金」が出てきたとき、この帳簿に記録する
当座預金出納帳	当座預金勘定の明細を記録するための補助簿 p.58 → 仕訳に「当座預金」が出てきたとき、この帳簿に記録する
商品有高帳	商品の受入れ、払出しおよび残高の明細を記録するための補助簿 p.70 → 仕訳に「仕入」「売上」が出てきたとき、この帳簿に記録する
売掛金元帳	得意先ごとの売掛金の明細を記録するための補助簿 p.76 → 仕訳に「売掛金」が出てきたとき、この帳簿に記録する
買掛金元帳	仕入先ごとの買掛金の明細を記録するための補助簿 p.76 → 仕訳に「買掛金」が出てきたとき、この帳簿に記録する
仕入帳	仕入取引の明細を発生順に記録するための補助簿 p.68 → 仕訳に「仕入」が出てきたとき、この帳簿に記録する
売上帳	売上取引の明細を発生順に記録するための補助簿 p.69 → 仕訳に「売上」が出てきたとき、この帳簿に記録する
固定資産台帳 p.139	固定資産の取得・売却・減価償却に関する明細を記録するための補助簿 → 仕訳に「固定資産」が出てきたとき決算などに、この帳簿に記録する

【解説】

問 1

・取引を仕訳し、仕訳した各勘定科目から、記録する補助簿を推定する。

2 日 (借) 買 掛 金 20,000 (貸) 仕 入 20,000

買 掛 金 → 買掛金元帳

仕 入 → 仕入帳・商品有高帳

16 日 (借) 土 地 5,598,000 (貸) 当座預金 5,400,000 p.92

現 金 198,000

土 地 → 固定資産台帳

当座預金 → 当座預金出納帳

現 金 → 現金出納帳

※整地費用は土地の取得価額 (¥5,400,000) に加算する。p.98

18 日 (借) 前 受 金 40,000 (貸) 売 上 450,000

売 掛 金 413,000 現 金 3,000

※注文時に受け取った手付金は前受金である。

それを相殺したから、前受金勘定 (負債) の借方に記入する。

同社負担の発送費は、九州商事 (買手) 負担の発送費である。

買手負担の発送費は売掛金に加算するか、立替金勘定で処理するが、問題文より売掛金に加算する。

売 上 → 売上帳・商品有高帳

売 掛 金 → 売掛金元帳

現 金 → 現金出納帳

25 日 (借) 貸倒引当金 160,000 (貸) 売 掛 金 370,000 p.129

貸 倒 損 失 210,000

※前期の売掛金が貸し倒れたときは、貸倒引当金を取り崩す。ただし、引当金が不足する場合は不足額を貸倒損失で処理する。

売 掛 金 → 売掛金元帳

問 2

・仕訳 (借) ○○○ 6,480,000 (貸) 土 地 5,598,000 p.93
固定資産売却益 882,000

第3問 8月末の残高試算表と9月中の取引から9月末の残高試算表を作成する問題である。

【解答】 p.43

残 高 試 算 表

X1年9月30日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
284,000	現 金	
1,240,000	当 座 預 金	
380,000	受 取 手 形	
576,000	ク レ ジ ッ ト 売 掛 金	
40,000	前 払 金	
360,000	繰 越 商 品	
600,000	備 品	
520,000	差 入 保 証 金	
	支 払 手 形	696,000
	買 掛 金	294,000
	所 得 税 預 り 金	15,000
	貸 倒 引 当 金	40,000
	備品減価償却累計額	180,000
	資 本 金	1,500,000
	繰越利益剰余金	968,000
	売 上	8,400,000
	受 取 利 息	3,000
3,930,000	仕 入	
1,900,000	給 料	
507,000	水 道 光 熱 費	
1,360,000	支 払 家 賃	
313,000	支 払 手 数 料	
86,000	消 耗 品 費	
12,096,000		12,096,000

【解説】 解答手順

1. 9 月中の取引の仕訳を行う。

1 日 (借) 当 座 預 金 303,000 (貸) 貸 付 金 300,000 p.95
 受 取 利 息 3,000

※受取利息 $¥300,000 \times 4\% (0.04) \times \frac{3 \text{ か月}}{12 \text{ か月}} = ¥3,000$

2 日 (借) 仕 入 240,000 (貸) 前 払 金 75,000 p.98
 買 掛 金 165,000

※注文時に支払った手付金は前払金(資産)。その手付金と相殺するから、貸方が前払金になる。

3 日 (借) クレジット売掛金 576,000 (貸) 売 上 600,000 p.81
 支 払 手 数 料 24,000

※クレジットカードで商品を販売したときは、クレジット売掛金勘定(信販会社に対する債権)で処理する。クレジット売掛金の金額は、売上高から信販会社への手数料を差し引いた金額である。

5 日 (借) 買 掛 金 180,000 (貸) 支 払 手 形 180,000 p.83

6 日 (借) 所 得 税 預 り 金 20,000 (貸) 現 金 20,000 p.99

※所得税の源泉徴収額とは、給料を支払ったときに給料から差し引いて預かった従業員の所得税である。それを税務署に納付したので借方が所得税預り金(負債)になる。

8 日 (借) 差 入 保 証 金 320,000 (貸) 当 座 預 金 480,000 p.106
 - 資 産 -

支 払 手 数 料 160,000

※敷金を支払ったときは差入保証金勘定(資産)で処理する。

敷金は原則として全額が返却されるので、当期の費用とせず資産として処理する。

12 日 (借) 仕 入 390,000 (貸) 支 払 手 形 390,000 p.83

13 日 (借) 受 取 手 形 200,000 (貸) 売 上 200,000 p.83

16 日 (借) 支 払 手 形 250,000 (貸) 当 座 預 金 250,000 p.83

19 日 (借) 当 座 預 金 780,000 (貸) クレジット売掛金 780,000 p.81

20 日 (借) 給 料 300,000 (貸) 所 得 税 預 り 金 15,000 p.99

当 座 預 金 285,000

21 日 (借) 当 座 預 金 470,000 (貸) 受 取 手 形 470,000 p.83

22 日 (借) 水 道 光 熱 費 77,000 (貸) 当 座 預 金 437,000

支 払 家 賃 360,000

26 日 (借) 買 掛 金 220,000 (貸) 当 座 預 金 220,000

27 日 (借) 前 払 金 40,000 (貸) 現 金 40,000 p.98

※手付金は前払金勘定で処理する。前渡金でも可であるが、残高試算表に前渡金はないので前払金で処理する。

第4問 一部振替取引についての2つの記入法を理解しているか問う問題である。

【解答】

①	②	③	④	⑤
入金	50,000	売掛金	仕入	270,000

【解説】 p.184

確認 一部振替取引（一部現金取引ともいう）については2つの起票法がある。

- ① 全額を掛取引として起票する方法
- ② 取引を分解して起票する方法

(1) 1. 取引を仕訳する。

(借) 現金 50,000 (貸) 売上 500,000
 売掛金 450,000

2. この取引を、2つの起票法で起票すると仕訳がどのようになるか考える。

〔①の方法〕

(借) 売掛金 500,000 (貸) 売上 500,000 … 振替伝票に起票
 (借) 現金 50,000 (貸) 売掛金 50,000 … 入金伝票に起票

〔②の方法〕

(借) 現金 50,000 (貸) 売上 50,000 … 入金伝票に起票
 (借) 売掛金 450,000 (貸) 売上 450,000 … 振替伝票に起票

3. 振替伝票の金額が¥500,000 と記入されていることから、①の方法での起票と判断できる。

4. ①の方法で伝票を作成すると次のようになる。

(入金)伝票		振替伝票			
科目	金額	借方科目	金額	貸方科目	金額
(売掛金)	(50,000)	(売掛金)	500,000	売上	500,000

(2) 1. 取引を仕訳する。

(借) 仕入 300,000 (貸) 現金 30,000
 買掛金 270,000

2. この取引を、2つの起票法で起票すると仕訳がどのようになるか考える。

〔①の方法〕

(借) 仕入 300,000 (貸) 買掛金 300,000 … 振替伝票に起票
 (借) 買掛金 30,000 (貸) 現金 30,000 … 出金伝票に起票

〔②の方法〕

(借) 仕入 30,000 (貸) 現金 30,000 … 出金伝票に起票
 (借) 仕入 270,000 (貸) 買掛金 270,000 … 振替伝票に起票

3. 出金伝票の科目が仕入と記入されていることから、②の方法での起票と判断できる。
4. ②の方法で伝票を作成すると次のようになる。

(出 金) 伝 票		振 替 伝 票			
科 目	金 額	借方科目	金額	貸方科目	金額
仕 入	(30,000)	(仕 入)	(270,000)	(買 掛 金)	(270,000)

第5問 貸借対照表と損益計算書を作成する問題である。p.173

【解答】

貸借対照表

X2年3月31日

(単位：円)

現金	(179,000)	買掛金	(593,000)
当座預金	(609,500)	借入金	(400,000)
売掛金 (455,000)		(未払)消費税	(200,000)
貸倒引当金 <u>(△ 9,100)</u>	(445,900)	未払費用	(8,000)
商品	(174,000)	資本金	(2,000,000)
(前払)費用	(25,000)	繰越利益剰余金	(1,607,400)
備品 (1,200,000)			
減価償却累計額 <u>(△ 525,000)</u>	(675,000)		
土地	2,700,000		
	<u>(4,808,400)</u>		<u>(4,808,400)</u>

損益計算書

X1年4月1日からX2年3月31日まで

(単位：円)

売上原価	(3,026,000)	売上高	(5,500,000)
給料	(1,800,000)		
貸倒引当金繰入	(8,800)		
減価償却費	(150,000)		
支払家賃	(275,000)		
水道光熱費	(44,500)		
通信費	(64,100)		
保険料	(24,000)		
雑 (損)	(1,900)		
支払利息	(20,000)		
当期純 (利益)	(85,700)		
	<u>(5,500,000)</u>		<u>(5,500,000)</u>

【解説】

[決算整理事項]

1. 現金過不足の整理

(借) 通 信 費 2,100 (貸) 現 金 4,000 p.150
 雑 損 1,900

※・通信費の記入漏れから、(借方) 通信費の仕訳ができる。

・帳簿残高が¥183,000、実際有高が¥179,000 から、現金が¥4,000 不足していたことがわかる。
 そこで、¥4,000 と¥2,100 の差額は雑損となる。

2. 修正仕訳

(借) 当座預金 36,000 (貸) 売 掛 金 36,000 p.114

※・企業が行った仕訳 (誤仕訳)

(借) 当座預金 26,000 (貸) 売掛金 26,000

・上記の誤仕訳を取り消す仕訳 (①)

(借) 売 掛 金 26,000 (貸) 当座預金 26,000

・本来行なわれるべき仕訳 (②)

(借) 当座預金 62,000 (貸) 売 掛 金 62,000

・修正仕訳 上記①と②が修正仕訳になる。

(借) ~~売 掛 金 26,000~~ (貸) ~~当座預金 26,000~~
 36,000 36,000
 (借) ~~当座預金 62,000~~ (貸) ~~売 掛 金 62,000~~

3. 水道光熱費の未記帳

(借) 水道光熱費 3,500 (貸) 当座預金 3,500

4. 貸倒引当金の設定

(借) 貸倒引当金繰入 8,800 (貸) 貸倒引当金 8,800 p.127
 -費用- -売掛金の評価勘定-

※ 貸倒引当金繰入額の計算

売 掛 金
 $(¥491,000 - ¥36,000) \times 2\% - ¥300 = ¥8,800$
 試算表 整理事項 2. 貸倒引当金残高 (残高試算表)

5. 売上原価の計算 p.123

(借) 仕 入 200,000 (貸) 繰越商品 200,000 … 期首商品棚卸高 (残高試算表「繰越商品」)
 (借) 繰越商品 174,000 (貸) 仕 入 174,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

6. 減価償却費の計上 (備品) p.132

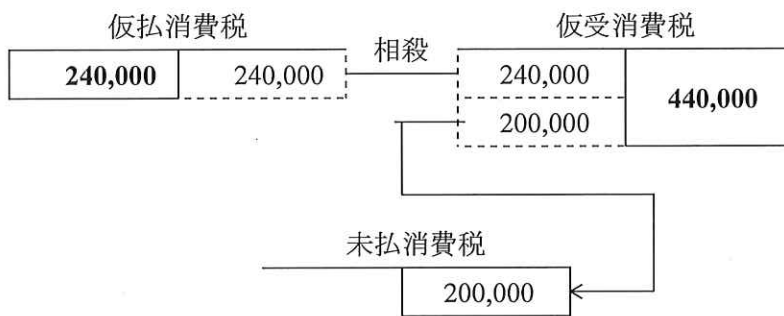
(借) 減価償却費 150,000 (貸) 備品減価償却累計額 150,000
 -費用-

※減価償却費の計算 (定額法)

〈備品〉 取得原価 耐用年数
 ¥1,200,000 ÷ 8年 = ¥150,000

7. 消費税の処理 p.111

(借) 仮受消費税 440,000 (貸) 仮払消費税 240,000
 未払消費税 200,000
 -負債-



8. 未払利息の計上 p.148

(借) 支払利息 8,000 (貸) 未払利息 8,000
 -負債-

※ 12月1日から3月31日(決算日)までの利息が未払いである。そこで、未払額を当期の費用として支払利息勘定に計上するとともに、未払利息勘定(負債)の貸方に記入する。



未払利息の計算 $¥400,000 \times 0.06 \times \frac{4 \text{ か月 (12月~3月)}}{12 \text{ か月}} = ¥8,000$

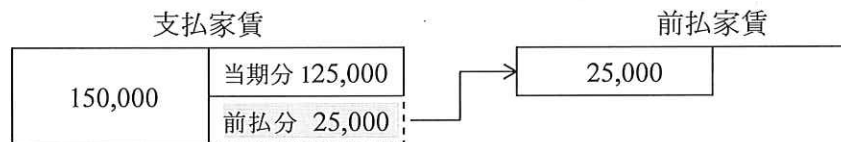
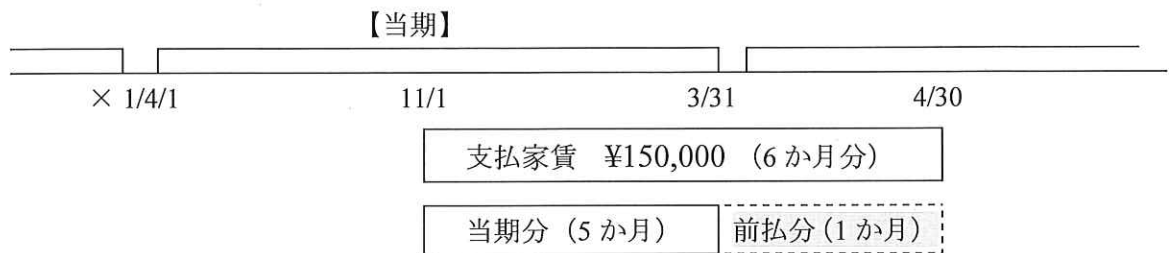
- ※ POINT 1. 未払利息勘定は負債である。
 2. 未払利息は貸借対照表に未払費用(負債)として記載する。

9. 前払家賃の計上 p.144

(借) 前払家賃 40,000 (貸) 支払家賃 40,000

-資産-

※ 支払家賃のうち¥150,000 については、当期分が 5 か月分、残り 1 か月分が前払分である。
 そこで、前払分を次期に繰り延べるため、支払家賃勘定から前払家賃勘定（資産）に振り替える。



$$\text{前払家賃の計算 } ¥150,000 \times \frac{1 \text{ か月 (前払分)}}{6 \text{ か月}} = ¥25,000$$

- ※ pPOINT 1. 前払家賃勘定は資産である。
 2. 前払家賃は貸借対照表に前払費用（資産）として記載する。

[貸借対照表・損益計算書作成上の pPOINT]

貸借対照表 p.173

- 貸倒引当金は売掛金から控除する形で記載する。
- 減価償却累計額は備品から控除する形で記載する。
- 未払利息は「未払費用」（負債）、前払家賃は「前払費用」（資産）として記載する。
- 繰越利益剰余金と当期純利益の関係は次のとおりである。

決算整理前残高試算表		貸借対照表
繰越利益剰余金	当期純利益	繰越利益剰余金
¥1,521,700	+	¥85,700
		=
		¥1,607,400

損益計算書 p.173

- 仕入勘定の残高は「売上原価」として記載する。
- 売上勘定の残高は「売上高」として記載する。

なお、最後に、当期純利益¥145,600 が、貸借対照表と損益計算書で一致していることを確かめる。